

## オープン市場短信 (2007年2月)

2007.2.08

### 1月のCP市場動向

1月のCP新規発行額は、期落ち（約4兆9,800億円、月中発行・償還分を含む）を上回る5兆300億円程度となり（除く、ABCP・金融機関発行CP）3ヶ月連続で5兆円を上回る大量発行となった。電機メーカー・鉄鋼・機械等の一般事業法人が積極的に発行しており、前月比では約2,100億円増加した。企業活動の活発化がCP発行の増加に反映されているように思われる。

発行レートは、追加利上げに対する思惑等から全般的に不安定な状態となった。元旦の新聞報道で、1月中の利上げ観測が流されたことから、月初は強含み地合いでのスタートとなった。しかし、米有力コンサルタント会社が利上げ困難とのレポートを出したことから市場の空気が変化し、債券・金先相場は反発に転じた。その後も、1月の利上げが見送られるとの観測が強まり、日々レート低下が進んだ。18日に金融政策決定会合で現状維持が決定されると、投資家・ディーラーの購入ニーズが急速に強まり、他の金利商品に比べて高止まりが続いていたCP金利も一気にレート低下が進み、期内物は3月までの利上げをなしと見る水準まで低下した。もっとも、金融政策決定会合において現状維持に対する反対票が3票もあったことから、2月利上げに対する警戒感も残り期越物は低下のペースが緩やかなものになった。

### 銘柄別の発行レート

#### 1月のCPレートレンジ

単位 %

格付	1ヶ月	2ヵ月	3ヵ月
格付 a-1+(オペ適格)	0.344 ~ 0.400%	0.469 ~ 0.529%	0.510 ~ 0.545%
格付 a-1 (オペ適格)	0.368 ~ 0.580%	0.459 ~ 0.588%	0.539 ~ 0.619%
格付 a-1+(リース銘柄)	0.34 ~ 0.550%	0.439 ~ 0.580%	0.470 ~ 0.556%
格付 a-1 (リース銘柄)	0.378 ~ 0.575%	0.45 ~ 0.595%	0.540 ~ 0.690%
格付 a-2	0.414 ~ ㇿ0.60%	0.51 ~ ㇿ0.80%	0.559 ~ ㇿ1.00%

### CP オペ

CP現先オペは、16日の期落ちに対して資金不足日の15日スタート2/23エンドのオペが実施された（12日オフアー）。ディーラーが積極的に応札したことから、応札額は5,655億円となり落札レートも前回の年越しオペレートを上回り、足切レートが0.42%・平均落札レートは0.450%となった。

### 1月末のCPオペ残高

1月末のCP現先オペ残高・・・2,895億円。

（短期社債・保証付短期外債億円2,615億円/資産担保短期債券280億円）

## ABCP

1月末のABCPの発行残高は、年末要因が剥落したなどから前月比約1,737億円減少し、約4兆928億円となった。

## 短期社債残高

証券保管振替機構発表によると、短期社債の1月末発行残高は19兆9,463.84億円で、前月末比約850億円の減少となった。事業法人と証券会社が増加したが、その他金融・ABCP・銀行CPが減少した。短期社債による資金調達を行なった企業数の累計は1月末時点で初めて400社を超えた（発行登録企業432社中401社が発行）。

## 現先市場

月中現先レートは、利上げ懸念などから高めで推移し、S/Nレートは0.33～0.36%のレンジでの出会い。金融政策決定会合で利上げ見送りが決定した後も、発行増による需給悪化もあって低下の動きは見られず、0.36～0.38%近辺での出会いとなった。

## 2月のCP市場動向

2月中のCP償還額は、前月と変わらず約4兆6千億円弱となっている（除く金融機関発行CP・ABCP）。月初は、ショートターム物の期落ちが多く発行ペースは期落ち比減少しているが、20・21日の日銀金融決定会合以降レート水準が固まることで発行が進み、期落ち並みには達するのではないかと。

発行レートは、今月も利上げが見送られるのではないかとの見方などから、期内物はレート低下が進んでいる。7日現在、1ヶ月物はa-1格銘柄で0.36%台～0.38%前後のレート水準、2月月中物は現先レートとほぼ同水準の0.32～0.35%水準となっている。期越物は期末要因もあってレートが上昇しており、a-1格銘柄の2ヶ月物で0.50%台前半、3ヶ月物では0.55%以上となっている。20-21日の金融政策決定会合までは現行水準での動きとなろう。その後のレート動向については、利上げが見送られれば、現行の水準での出会い。利上げが行なわれた場合は、足元金利0.60%前後を予想し期内物は0.60～0.65%、期越物では0.65%～0.70%台前半での出会いか。

## CPオペ

現先オペは、23日に期日が到来する。今月も、資金不足日に合わせて供給オペが実施されるだろう。

## 現先市場

月中現先レートは、S/N物で0.32～0.35%の出会いを予想する。ターム物は0.33～0.37%の水準の出会いを予想（利上げがない場合）。利上げが行なわれた場合、S/N物・ターム物は0.58～0.63%近辺での出会いを予想する。

（松倉）

**参考資料**

**業種別残高内訳**

単位：億円

業 種	1 月末残高	12 月末残高	増減
事業法人	63,532	61,431	2,101
その他金融	71,255	71,656	401
金融機関	23,748	24,561	813
( 銀行等	12,037	13,568	1,531 )
( 証券	11,711	10,993	718 )
ABCP	40,928	42,665	1,737
計	199,463	200,313	850

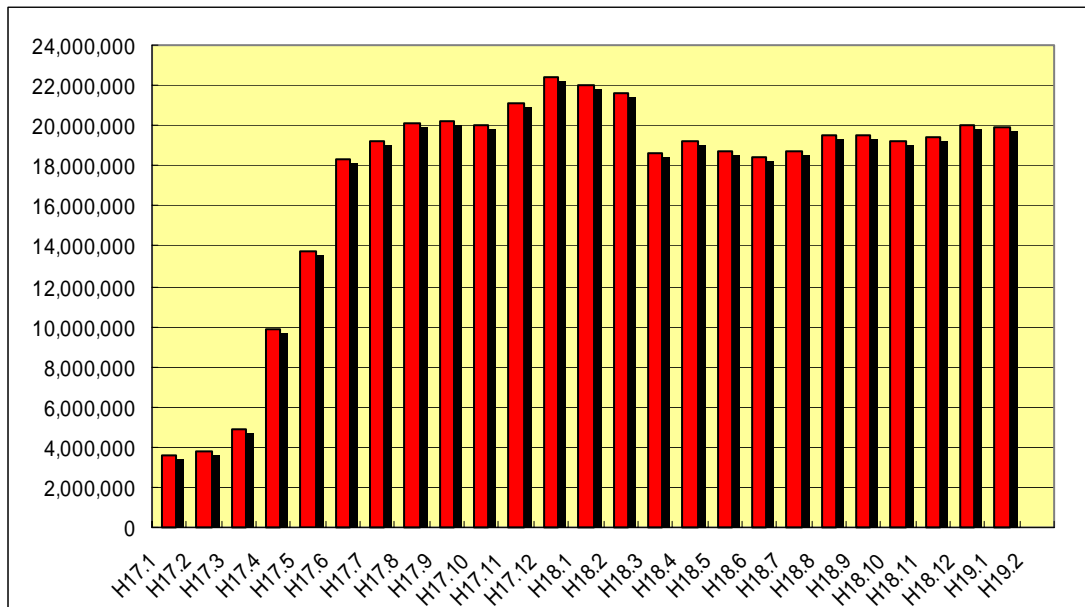
(注：買入消却分含む)

**短期社債月末発行残高 (H17年1月～H19年1月)**

1 月末発行残高：19 兆 9,763.84 億円

発行登録企業：432 社 (発行実績あり 401 社)

(単位：百万円)



## 1 月末発行残高ベスト 20

(単位:百万円)

	発行企業名	1 月末残高
1	フォレスト・コーポレーション	731,799
2	オリックス	704,100
3	ダイヤモンドリース	597,800
4	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	560,800
5	エイベックス・ファンディング・コーポレーション	505,300
6	日産自動車	450,000
7	みずほ証券	391,000
8	住商リース	378,500
9	UFJ セントラルリース	376,100
10	日立製作所	370,000
11	住友信託銀行	365,200
12	アルカディア・ファンディング・コーポレーション	356,100
13	新日本石油	341,000
13	UFJ ニコス	341,000
15	東京リース	325,600
16	エイチジーエム・アセット・ファンディング	295,300
17	興銀リース	295,200
18	三菱東京 UFJ 銀行	294,700
19	みずほコーポレート銀行	293,800
20	日産フィナンシャルサービス	290,000

参考出所 (株) 証券保管振替機構